

フランス観光開発機構 2018 年度キャンペーン



恋するフランス

プレス資料

2018 年 4 月



恋するフランス

キャンペーン始動に寄せて

フランスといえば、すぐワインに美食、歴史や文化が連想されるもの。ええ、確かにそのとおり。

しかしそれ以前に大事なことを、私たちは忘れていました。

それはずばり「愛」。そう、フランスは何といても愛の国なのです。

思えばこれまで私たちが正面からこのテーマに取り組むことはありませんでした。それはもしかしたら、フランスでは「愛」があまりに当たり前すぎて気にも留めない事象だからなのかもしれません。それくらい愛はフランス人の日常の中にさりげなく、しかし揺ぎなく存在しています。

フランスがロマンティックな場所であることを自覚させてくれたのは、日本からフランスへ旅行される方々の反応でした。海に浮かぶモン・サン・ミッシェルの絶景を見ながら皆さんはまず「ロマンティックな場所だ」と感想を述べられます。

ちなみに、2017年は一時期減少したフランスへの日本人旅行者の送客量が戻った年でした。これは何よりメディアや旅行業界の皆様がフランス観光のPRへご尽力下さったお陰です。ただもうひとつ、日仏間に古くから存在するお互いの「愛」が根底にあったことも忘れてはなりません。日本人にとっての憧れであるフランス、フランス人にとって憧れである日本。その思いが見事にお互いを結びつけたお陰で、観光業は再び光を見出すことができました。日仏交流160周年の節目となる今年、惹かれあう二国の愛の形を観光プロモーションに結び付けられるものは何かと考えた時、素直に「愛」を感じ、高めあえる旅、つまり「ロマンティックなフランス」を提案することではないかと思に至りました。

私事で恐縮ですが、日本人の妻と結婚式を挙げた場所はフランスです。ロマンティックなどという言葉に縁遠いはずの私がオクシタニーの夢のような美しい田舎で式を挙げ、モン・サン・ミッシェルにハネムーンに出かけたことで、フランスの美しさを再認識できました。期待値を200パーセント上回るこのうえないロマンティック体験を生涯忘れることはないでしょう。

皆様もぜひ、愛する人とフランスに旅に出て、ふたつの国の愛を育んでください。

2018年4月



フランス観光開発機構 在日代表
フレデリック・マゼンク

目次

- キャンペーン概要 4
- ピックアップ・デスティネーション
- オクシタニー地方 6
- ノルマンディー地方 10
- パートナー企業・団体..... 14



 今年のピックアップデスティネーション

キャンペーン「恋するフランス」とは？

大切な人と二人ででかけるロマンティックなフランス旅を訴求するキャンペーン。特設サイト koisurufrance.jp を中心に、ロマンティックな観光スポットやアクティティ情報を発信するほか、カップル一組を募集し実際にフランス旅行を体験してもらいます。ピックアップ・デスティネーションは北西フランスのノルマンディー、南西フランスのオクシタニーの2地方です。

一組のカップルをフランス旅行へ招待

ロマンティックなフランス旅を体験するカップル1組を募集します。応募方法は2通り。

①特設サイトから一緒に旅したい相手にオンライン招待状を送る

特設サイト koisurufrance.jp から一緒にフランスへ行きたい彼氏または彼女（ご夫婦、婚約中、片思いの相手などカップルの形態は問いません）にオンライン招待状を送ります。招待状を受け取った相手がフランス行きを了承することで二人の応募が完了します。招待状には自由にメッセージが書き込めるので、様々なシチュエーションでお使いいただけます。密かに心を寄せる方へのラブレターにしたり、ご夫婦間でさりげない感謝の気持ちを伝えたり、最近マンネリ化が気になるカップルならばサプライズで送られる招待状自体が愛のスパイスになったり…。二人で行くフランス旅行を想像するだけでも幸せな気分になれることでしょう。応募期間は4月23日から5月14日午後23時59分。

How to participate



Step 1

一緒にいきたい相手を
想像して…



Step 2

あなたの行きたい
ロマンチックな
フランスツアーを選択



Step 3

一緒にいきたい相手に
メールまたはSNSで
インビテーションを
送ります



Step 4

相手がOK
してくれたら、
応募完了！

②イベント「恋するフランス」に参加する

2018年4/28（土）、29（日）に東京、六本木のヒルズカフェにて開催するイベント「恋するフランス」に参加することで、フランス旅行へ応募できます。

フランスの絶景写真のパネルの前に立ち、カップルで現地にいるかのような写真を撮影します。その写真を使ってその場で絵葉書を作り、会場に設置してあるポストに投函すれば応募完了です。「二人で行くフランス旅」を身近に感じることで、旅への期待が高まります。

会場ではブジョーのキャンペーンラッピングカー展示や、ピエール・エルメのマカロンのテイスティングを同時に実施します。

イベント名：恋するフランス

日時：2018年4月28日（土）、29日（日）、午後11時～午後7時

場所：六本木ヒルズカフェ

屋外広告

キャンペーン始動にあわせ都内で屋外広告を実施いたします。

実施期間：2018年4月23日～29日（7日間）

掲出場所：東京メトロ、JRの首都圏主要各駅

メインビジュアル・ロゴ



恋するフランス

恋するフランス

報道目的のご利用に限り下記からDL可能です。

<https://goo.gl/m3sgE1>

キャンペーンサイト

koisurufrance.jp

OCCITANIE オクシタニー地方



© Site Pont du Gard, A-Rodriguez



地中海と大西洋の間に広がる“もうひとつの南仏”オクシタニー地方。ダイナミックなピレネー山脈から温暖な地中海までバラエティーに富む景観が広がります。古代ローマ史跡、ミディ運河、サンチアゴデコンポステラ巡礼路、アルピ司教都市など世界遺産の宝庫です。「フランスの美しい村」協会に登録された個性的な村が多い地方。広大なワイン産地でワイナリー巡りも欠かせません。

オクシタニーでしたい8つのロマンティック体験

ピック・デュ・ミディ天文台、星空の下で眠る

ピレネー山脈にある標高 3000 メートルほどの頂きにあるピック・デュ・ミディ天文台には限定 15 室のホテルが併設されており、星空に手が届きそうな場所で神秘的な一夜を過ごすことができます。

高揚感とともにロープウェイに乗り標高 2877 メートルの頂上へ。そこに待っているのはピレネー山脈を見渡す素晴らしい眺め。1870 年に建設された天文観測所は常に進化し続けており、ヨーロッパで最も標高の高い場所にあるプラネタリウムがオープンしたかと思えば、その後、標高 2877 メートルの地点に、まるで宙に浮いているような全長 10 メートルのメタリックな通路ができました。ここから望むピレネー山脈の素晴らしさに思わず息を飲むでしょう。さらに新しいレストランとブラスリーがオープンし、頂上でのグルメが益々充実したものになっています。テラスは貸切りにもできます。カップルにお勧めしたいのは、やはり限定 15 室の客室に泊まること。泊まった人だけが、翌朝、山合から出る朝日を拝むことができます。

www.picdumidi.com



© D. Viet / CRT Occitanie

ボン・デュ・ガールでウェディングフォトを撮影する

古代ローマ時代の水道橋で、ガルドン川に 25 メートルにわたって掛けられたボン・デュ・ガールは、その類まれなる景観から、ロマンティックな撮影スポット、とくにウェディングフォトの撮影スポットとして人気です。幾世紀を

経ても崩れない建築遺産にかけ、永遠の愛を誓うには最高のシチュエーションと言えるでしょう。

周辺には、地中海の植物が植えられた散策路「灌木のメモリー (Mémoires de Garrigue)」があり、ブドウ畑やオリーブ畑の間を歩きながら地中海文化と風景に思いを馳せましょう。

ボン・デュ・ガールは 1985 年にユネスコ世界遺産に登録されていますが、ユネスコが新たに制定した欧州を縦横する観光ルート「古代の道 (la Route Antique)」の一部としてもフランスで唯一選ばれ注目を集めています。<http://pontdugard.com/jp>



© Site Pont du Gard

ロット川クルーズでカオールからサン・シル・ラポピーへ

ロマンティックな旅に絶景は欠かせません。そこでおすすめするのは絶景続きの一日がかりのロット川クルーズ。

カオール(Cahors)市内にあるヴァラントレ橋(le pont Valentré)から出発し、ビーゼス断崖(les falaises de Bouziès)や可愛らしい村サン・シル・ラポピー(Saint-Cirq-Lapopie)を観光しましょう。クルーズ終了時にはロット川に広がる景観を誰かに言わずにいられなくなります。水門の仕組みにもすっかり詳しくなることでしょう。地元ケルシー地方ならではのグルメもどうぞ。特産品を使ったランチが船上で楽しめます。ベストシーズンは 5 月～9 月です。

クルーズに加えて、パディラック鍾乳洞(le gouffre de Padirac)へも足を伸ばしてみるのはいかがでしょうか。地下 103 メートルまで降り、洞窟内を船で行く旅は圧巻。神秘的な地底旅行をお楽しみください。

<https://www.tourisme-lot.com/en/the-must-sees/the-great-outdoors/boating-on-the-lot>



バラ色の街トゥールーズのバーで夜更かし

世の中には抗いがたい魅力を放つ街がいくつか存在しますが、オクシタニー地方の首都トゥールーズはまさにそのひとつ。赤茶色の瓦屋根にオレンジ色とピンク色が混ざり合ったカラーのレンガの壁が独特の雰囲気を出し、まさに「バラ色の街」なのです。美しい街並み、ゆったりした雰囲気、活気に満ちた街は人々を魅了してやみません。街の風景に二人して溶け込みたくなったら、まずは街の中心地であるカピトル広場へ出かけましょう。広場の周りはレストランやカフェのテラスが囲み、恋人や友人と語り合う人々で賑わいます。彼らに混じってテラスでアペリティフを一杯どうぞ。さらに、トゥールーズには 2017 年に世界のベストバーに選出された「ワインバー・ヌメロ・サンク」(N°5 Wine Bar)がありますから、ゆったりした夜を愉みたい人はぜひ。トゥールーズは宇宙航空産業の中心都市ですので、ヨーロッパで唯一のエアバス A380 の工場や航空博物館のアエロスコーピア (Aeroscopia)、宇宙に関するテーマパーク「シテ・ド・レスパス (Cité de l'Espace)」を訪ね、壮大な宇宙のロマンについて語り合うというのも良いでしょう。www.toulouse-visit.com



運河沿いは最高のデートスポット

地中海と大西洋を結ぶドー・メール運河。プラタナスの木立に囲まれた世界でもほかに類をみない壮大な人工水路で、世界遺産のミディ運河とガロンヌ運河の 2 つから成っています。セトからトゥールーズまでの 214km をミディ運河、トゥールーズからモンテッシュ、モワサックを通じてガロンヌ川河口までの 200km がガロンヌ運河です。船に乗ってゆったりクルーズを楽しむもよし、運河沿いの曳舟の道を歩くだけでもノンビリできます。

船には様々な種類があります。ガイド付きツアー（船内での食事付き、あるいは食事なし）のほか、免許不要で操縦できる船を 1 週間レンタルし、誰にも邪魔されずに二人だけの船上生活を楽しむのもよいでしょう。昔ながらの船をホテルに改装したものもありますし、レストランとして桟橋に係留されている船で郷土料理を出してくれる所もあります。トゥール

ズのスマイル専門店「メゾン・ド・ラ・ヴィオレット」のようにスマイルグッズ専門のショップになっているものもあります。

<http://www.tourism-occitania.co.uk/home/things-to-see-and-do/sightseeing-and-exploring/cultural-heritage/unesco-world-heritage-sites/the-canal-du-midi>



ジャズフェスの熱気に浮かれる

8 月の星空のもとで楽しめる熱気に満ちたジャズの祭典。ファンが親しみを込めて Jim と呼ぶマルシアックのジャズフェスティバルは、フランス国内のみならず世界各地から著名なジャズプレイヤーが一堂に会し、ジャズの世界でもっとも重要なフェスティバルに位置付けられています。

会場となるマルシアック(Marcillac)は、ジェル (Gers) 県内に続く小さな谷の底につくられた 13 世紀の要塞都市。その気質や活気、伝統で多くの人々を惹きつけ、40 年も前からヨーロッパ最大規模のジャズフェスティバルが毎年開催されてきました。毎夏、7 月終わりから 8 月中旬にかけて 25 万人もの観客が押し寄せます。マルシアックのジャズフェスティバルがほかと違うのは、アーティストを非常に身近に感じることができること。ジャズメンたちにとって、ここはまさにホームグラウンド。朝から無料コンサートが開かれる中心広場ではミュージシャンたちが頻りに行き交い、街に満ちるフレンドリーな雰囲気を楽しみながらレストランやカフェのテラスでくつろぐ姿も見かけます。夜になれば、一般の人々に紛れて出番のないミュージシャンたちが特設テントにいるのも見かけることがあるでしょう。

<http://www.jazzinmarciac.fr/jp/>



カルカソンヌで中世にタイムスリップ

ユネスコ世界遺産に登録されているカルカソンヌは古代ローマに遡る歴史ある街。中世には難攻不落な城砦として知られるようになりました。ヨーロッパで見ることができるもっとも壮大な城砦への旅は忘れられないものとなるに違いありません。城壁は 3 キロにわたって続き、52 もの塔があり、その姿はまさにまさに珠玉の名城。城壁や階段、隠し扉や通路が迷路のように入り組んだなかに、立派な門が二カ所、砦や古城、大聖堂な

どがあり、中世の城のもつあらゆる構造物を見ることができます。

<http://ja.tourisme-carcassonne.fr/>



地中海の風景に囲まれて

スペイン国境からすぐのコリウール(Collioure)。地中海に面し、背後には山々が迫るコリウールへ向かう道中では、この上なく美しい風景が続きます。村に入れば、色鮮やかな家々が立ち並び、光に溢れた路地に心を奪われることでしょう。画家のアトリエやカタロニア地方の特産品を扱う店が連なり、地中海式の暮らしに触れることができるコリウールでの滞在を満喫しましょう。小石あるいは砂のビーチでの海水浴もお楽しみください。コリウールでのバカンスは思い出がいっぱい詰まったものとなるに違いありません。

合わせて訪れたいのが、コリウールから数分、ピレネー山脈のふもとにあるバニユルス・シュル・メール(Banyuls-sur-Mer)。ビーチあり、港あり、ブドウ畑あり、とバラエティーに富んだ見どころがたくさん。全長 6000 キロメートル以上もあるテラスや石堀にブドウ畑が広がり、その美しい光景はまるでポストカードのようです。ここで生産されているワインは 1936 年から AOC ワイン(原産地呼称)に格付けられています。天然甘口の赤ワインと白ワインがあります。<http://www.banyuls-sur-mer.com/en>



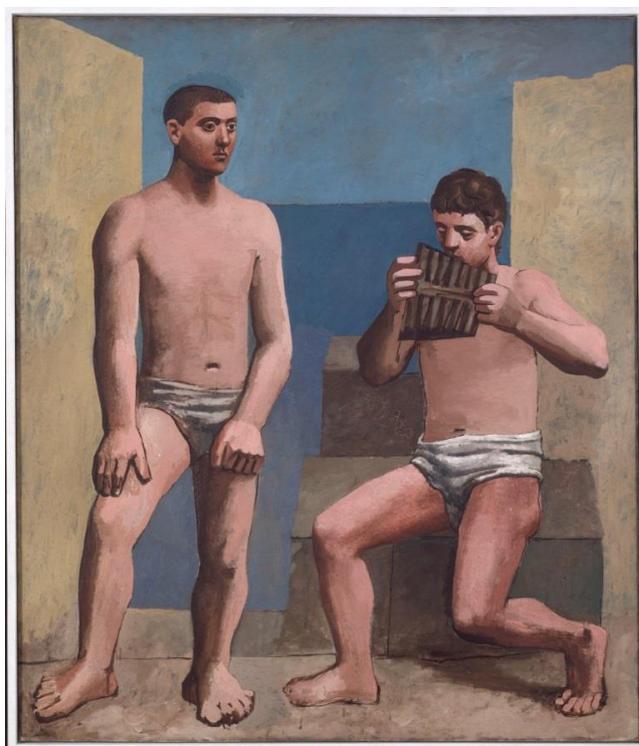
最新情報

ピカソ・メディテラネ 2017-2019

60 に及ぶフランス内外の美術館や財団で、3年にわたりピカソ関連の特別展が開催されます。音頭を取るのはパリにあるピカソ美術館。モンペリエ(Montpellier)、ニーム(Nîmes)、ロデーヴ(Lodève)そしてトゥールーズ(Toulouse)が、このアートアドベンチャーに参加しています。

- モンペリエのファーブル美術館(Musée du FABRE) 6月16日～9月23日: 特別展「見るものを与える(Donner à voir)」。ピカソの生涯においてキーポイントとなる15の日付に注目し、かつてなかった視点から考察します。

- モンペリエ近郊のロデーヴにて「ピカソと牧神(PICASSO ET LES FAUNES)」展 7月7日～10月7日: 常に大規模な特別展を開催するロデーヴ美術館が、この企画に参加しています。「牧神よ、我を恐れさせよ! 古代からピカソに至る牧神のイメージ」をテーマに、神話の登場人物である牧神に焦点を当てた特別展が開催されます。軸となるのは、この美術館の目玉であるポール・ダルデ(Paul Dardé)による彫刻作品、大牧神像。4メートルを越す大作です。美術館は4年に及ぶ修復工事を経て、再オープンをおピカソ展で飾ります。工事により、建築はより大胆なものとなり、また展示手法もより作品世界に入り込むことができるようとなりました。来館者参加型の展示もあります。
- ニームのカレ・ダール(CARRÉ D'ART)にてピカソ展 2018年10月8日から2019年2月24日: ニームの現代美術館であるカレ・ダールで紹介されるのは「ピカソと政治」。1937年から1950年代初頭の作品を中心に、ピカソの政治信条、政治との関わりを迫ります。
- 「ピカソとスペイン亡命」2019年2月1日～6月2日: スペイン内戦後、多くの亡命者を受け入れたトゥールーズとしては必然のテーマと言えるでしょう。



Pablo Picasso « La Flute de Pan » 1923 © RMN Grand-Palais / Jean-Gilles-Berizz

ニーム/古代ローマ博物館オープン 2018年6月2日

ニーム(Nîmes)に古代ローマ博物館(le musée de la Romanité)がオープンします。向かいに円形闘技場を望み、ニーム市が所有する古代ローマ発掘品のコレクションを引き立たせる最高の立地と言えるでしょう。博物館の建物には軽さと透明さを併せ持ち、石の持つ重量感が見るものを圧倒するような闘技場と好対照をなしています。博物館の屋根は植物で覆われ、とくに強い印象を受けるのがファサード。ガラスのタイルが水平にうねりを作っています。ニームにおける古代ローマの遺構ではしばしばモザイクが使われていますが、ガラスのタイルはそのようなモザイクを彷彿させます。コレクションは2万5000点もの発掘品からなる大変充実したもので、そのうち5500点ほどが3500㎡ものスペースに展示されます。コンピューターグラフィックスや拡張現実AR、画期的なオーディオビジュアルテクノロジーを駆使した革新的な展示手法を採用することにより、より忠実に古代ローマの世界を再現します。加えてレストランやホール、資料センター、講習用教室、ブティック、カフェ、さらにはニーム市の都市化が分

かる 360 度の円形展望パネルなどがあり、充実した施設を誇ります。

www.nimes-tourisme.com/fr/



黄色い電車「トラン・ジョーヌ」に乗車

カナリア号の愛称で親しまれている黄色い電車のトラン・ジョーヌ(Train jaune)。カタロニア地方のシンボリック的存在です。そのトラン・ジョーヌでのオリジナルな鉄道の旅はいかがでしょう。標高 427 メートルのヴァイルフランシュ・ド・コンフラン(Villefranche-de-Conflent)から標高 1232 メートルのラトゥール・ド・カロール (Latour-de-Carol) まで、1200m の標高差、全長 63 km を走ります。到着駅のボルケール駅(gare de Bolquère)は標高 1593m にあり、フランスで最も高い地点に位置しています。20 世紀初頭に敷設されたトラン・ジョーヌは 6% の勾配をのぼる唯一の鉄道。夏期には屋根を外したオープンエアの車両も運行します。

<http://www.tourisme-pyreneesorientales.com/en/5254/pages/d/pyrenees-mountains/the-yellow-train-in-summer/page/0>



ピレネー山脈でぜひ体験したい宙吊りの浮き橋

ピック・デュ・ミディ(Le Pic du Midi)には、今や最新の施設が揃っています。6 階建て、1 万㎡の建物が建ち、全部で 5 km 相当もの通路が各建物をつないでいるので、悪天候の際の移動もスムーズです。1200 キロワットの変圧器が 2 つ、850 キロワットの発電装置 1 式、浄水装置なども設置されています。ここに駐留している天文学者たちはより多くの人たちに天文について知ってほしいと望んでおり、学者たちと観光客たちの交流が盛んに行われています。なお、ピック・デュ・ミディ天文台は 4/23 ~6/3 まで工事のため閉鎖します。<http://picdumidi.com>



地中海でカキ養殖観光とリラクゼーション、牡蠣エステも！

トー湖 (le Bassin de Thau) 近くでカキの養殖を営むタルブリエシュ家(la famille Tarbouriech)を訪れて、作業の見学をしてみませんか。3 代前からカキ養殖を営む一家は、ソーラーパネルを使って潮の満ち引きを作り出すなど、最新技術の開発も積極的。多くの人にカキ養殖の仕事について知ってほしいと願い、作業用の舟で養殖の筏まで連れて行ってくれます。見学のあとは、美しいトー湖を眺めながら、美味しい地元白ワインとともに、一家が生産したカキをいただきます。

合わせてブージグ(Bouzigues)にあるトー湖博物館 (Musée de l'Etang de Thau) を訪れれば、より一層カキについて学ぶことができます。干潟でのカキの養殖の歴史について詳しく解説しており、大西洋側での養殖方法とはかなり異なることが分かるでしょう。さらに、マルセイヤン(Marseillan)まで足を伸ばすのはいいかが。あらゆるシェフやバーテンダーから圧倒的な支持を受けているヴェルモットのノイリー・プラット Noilly Prat は、一帯で産出される白ワインをベースにしたお酒。酒蔵見学を楽しむことができます。

さらに楽しみたい方は：タルブリエシュ家が経営する宿泊施設に泊まることもできます。養殖場からほど近く、周りをブドウ畑に囲まれたハイエンドな宿で、生産地ならではのカキのエキスを使ったエステ(オストリアセラピー osthéothérapie®)をぜひお試しください。

<https://www.tarbouriech.fr/>



プレスコンタクト

Comité Régional de Tourisme d'Occitanie

オクシタニー地方観光局

Cécile Sénard セシル・セナル

cecile.senard@crtoccitanie.fr

Tél. : +33 (0)5 61 13 55 29

<http://www.tourism-occitania.co.uk/>



Project co-financed by the European Union. Europe is investing through the European Regional Development Fund.

Normandie ノルマンディー地方



© Sabina Lorkin - Anibas Photography-Dietmar Feichtinger Architectes/SBP - CRT Normandie



パリ＝イル・ド・フランス地方に隣接するノルマンディー地方はモン・サン・ミッシェルとその湾、エトルタの崖、ジヴェルニーのクロード・モネの庭園など数々の名勝地で知られています。印象派のふるさとで、多くの画家や芸術家にインスピレーションを与えた地ノルマンディーは、海と田園地帯のあいだに広がり、ロマンティックで牧歌的なで訪れる雰囲気人をあたたかく迎えます。

ノルマンディーでしたい 8 つのロマンティック体験

パリから 1 時間半！ルーアンは街が丸ごと美術館

ルーアンの中心街には、木組みの建物、石畳の路地、ゴシック建築の教会、クロード・モネが描いた荘厳な大聖堂など、中世の面影をたたく街並みが保存されています。作家や芸術家たちのインスピレーションの源となってきたルーアンは、ジャンヌ・ダルクが処刑された地としても知られ、彼女を祀ったジャンヌ・ダルク歴史博物館（Historial Jeanne d'Arc）があります。

ルーアンの中心街を散策して、テラスでスイーツを堪能するのもいいでしょう。また近年開発が進んだセーヌ川沿いは、地元住民たちにも愛される散策スポットとなっています。

www.rouentourisme.com



エトルタ

石灰質の断崖に壮観な石浜が広がるエトルタ海水浴場は、両の腕を広げてみなさんのお越しをお待ちしています。断崖に沿って歩けば、世界でここだけの景色に出会うひとときとなることでしょう。人の手がつけられていない自然の作り上げた美は、名だたる画家や作家たちにインスピレーションを与えてきました。

お泊りの滞在には、素敵なホテルがノルマンディー流の温かなおもてなしで皆さまをお迎えます。

<http://etretat.net/office-de-tourisme-etretat/modules/content/content.php?page=accueil>



ドーヴィルで『男と女』の世界に浸る

世界にその伝説的な名を轟かすドーヴィルの海水浴場は、コート・フルーリー海岸に位置しています。ドーヴィルらしさといえば、海、そして花々が咲き乱れるのどかな景色でしょう。ベルエポック（19世紀末から20世紀初頭）に造られた木組みのヴィラ（別荘）、さらさらの砂浜が広がる海辺、絵になる佇まいの港……いずれもコート・フルーリーの特徴です。

ドーヴィルといえばまた、海沿いの遊歩道から庭園まで、徒歩はもちろん自転車でも散策を楽しめることも魅力です。競馬やポロ、馬術競技の白熱の試合を観戦したなら、きっと忘れられないスペクタクルを目の当たりにすることでしょう。アメリカ映画祭では新たな才能に出会うかもしれません。おいしいものがいっぱいあるマルシェに、カルヴァドス酒の醸造所など、地元の特産品の数々をどうぞご賞味あれ……。

クロード・ルルーシュ監督による神話的傑作『男と女』が1966年のカンヌ映画祭でパルム・ドールに輝き、作品の舞台であるドーヴィルが一躍脚

光を浴びてからというもの、ノスタルジックで他にはないこの街の雰囲気魅せられ、世界中から多くの人々が訪れています。

www.indeauville.fr



オンフルール、旧港で出会う珍しい建築遺産！

ノルマンディーの宝石、オンフルールへはパリから2時間半！オンフルールはノルマンディーでもとくに人気の観光地です。印象派の画家たちが愛した街並み、レストランがぐるりと周囲をとりまく旧港（Vieux-Bassin）の景色をお楽しみください。古くから変わらぬ佇まいをたたえ、石畳の道々に木組みの建物が軒を連ねる街には、小さな商店、快適なホテル、地元料理のレストランがひしめいています。また、さまざまなモニュメントや、文化・芸術遺産が数多くあることでも世界的にその名を知られています。オンフルールで過ごすなら、入り組んだ路地を気ままに歩いたり、美術館や博物館を訪ねたり、昔ながらの市場やオーガニック食品専門の市場などを巡ったり、かつての塩倉庫（Greniers à sel）で行なわれるコンサートや展覧会を楽しんだり、浜辺でのんびりとつろぐのもおすすめ……。オンフルールを出発地点にオージュ地方のシードル街道、チーズ街道を巡ったり、印象派の芸術家たちの足跡を辿ってセーヌの河口を散策したり、オンフルールは抜群の地の利を誇ります。

www.ot-honfleur.fr



2018年の最新アクティビティをモン・サン・ミッシェルで体験！

モン・サン・ミッシェル修道院へ夜の散策に出かけましょう。いまだ知られざる秘密がいっぱいです。夜の修道院で繰り広げられる感動のインスタレーション「モン・サン・ミッシェル年代記（Chroniques du Mont）」は、自然、人間、神が数千年の時空を飛び越えて織りなすめくるめく光と音のシンフォニー……。魅惑のスペクタクルを目の当たりにできるのは、7月1日から9月1日までです。

夜間散策は19:30から0:00まで（入場23:00）。日曜以外毎晩開催、予約不要。「モン・サン・ミッシェル年代記」チケットは、webサイ

ト（www.leschroniquesdumont.fr）にて事前購入、または当日チケット（13ユーロ）を現地でご購入ください。

<http://www.abbaye-mont-saint-michel.fr/en/>



オージュ地方で愛のシンボル、りんごを味わう

ノルマンディーの魅力がもっとも花開く季節といえば、春！ノルマンディーの田舎町では、りんごや洋梨の樹々が花盛りを迎えて私たちを喜ばせてくれます。花々は目を楽しませてくれるだけでなく香りも素晴らしく、これがのちに実を結び、味わいを増して、ついにはシードル酒、ポワール酒となります。こんな自然界のスペクタクルを見せてくれるオージュ地方は、コートフルーリー海岸の内陸に位置し、ノルマンディーの魅力がぎゅっと凝縮されたような土地です。りんごはノルマンディーを代表する果物であり、春には花を、8月には果実がみのった樹々をあちらこちらで目にするでしょう。ノルマンディーを特徴づける豊かな自然の恵みをぜひ賞味しにいらしてください。絵葉書から抜け出したような海水浴場、ブーヴロン＝アン＝オージュ村でのんびり過ごすのもおすすめです。カブールにほど近いこは、とりわけロマンティックなムードに包まれています。

ていねいに修復がほどこされた木組みの家々が立ち並び、住人たちのおだやかな生活感に彩られたブーヴロン＝アン＝オージュ村でノルマンディーらしさを満喫してください。www.normandy-tourism.org





© Thierry Houbert

愛を誓うチーズ、ヌーシャテル！

ノルマンディーのおいしい特産物を味わい、どのように作られるのか、その秘密にも迫ってください。お口がおぼえた甘美な体験は、今後もきっと記憶に残ることでしょう。ハートの形でおなじみのチーズ、ヌーシャテル (Neufchâtel) は、カマンベール、リヴァロ、ポン＝レヴェックと並んで、原産地呼称 (AOC) 制度で守られているノルマンディー地方特産の4チーズの1つです。愛し合うふたりも吸い寄せられてしまうほど美味しいヌーシャテルの特徴は、ペロアのようになめらかでふんわりとした表層部に覆われていること。ノルマンディーのあちこちで味わうことができます！



© D. Dumas CRT Normandie

www.normandy-tourism.org

カブール、ロマンティックな週末はここで決まり！

フェスティバル、ビーチ、競馬場、カジノ、グラン・ホテル (Grand Hôtel) ……カブールは魅力的なスポットにことかきません。

全長4kmにわたるさらさらの砂のビーチで人気の海水浴場カブールは、ベルエポックの雰囲気をいまなおたたえ、マルセル・ブルーストによってその名を知られるようになりました。カブールの街を華やかに彩るのは、カジノや、ブルーストが『失われた時を求めて』で見事に描写してみせたかのグラン・ホテルの周辺に集まる、20世紀初めの富裕層やパリのの上流階級が所有したヴィラ (別荘) です。カブールのカジノには、エディット・ピアフ、ジルバール・ベコー、シャルル・アズナブールといったフランスを代表するスターが出演し、その歴史に足跡を残しています。

30年以上前からこの地で開催され、人びとを惹きつけて続けているのは、カブール映画フェスティバルです。今年またカブールが話題の中心地になるのは6月13日から17日まで。ロマンティックなエスプリに出逢えるこの機会に、上映会場や各種イベントで満場一致の感動を体験されてください。期間中は、コンサート、講演会、テーマ別記念イベント、討論会、交流会 …… など、映画ファンや音楽ファンに向けた一般参加イベントが多数開催されます！ノスタルジックな映画ファンには、映画館やビーチでその年に成功を収めたもっともロマンティックな作品の数々を上映するイベントも。

感性を刺激してくれる週末の滞在をノルマンディーでお探しなら、ぜひカブールへ。

www.cabourg-tourisme.fr



© L. Leloup CRT Normandie



© BenJPhoto

最新情報

「カルヴァドス体験」で発見、変幻自在なりんごの秘密！

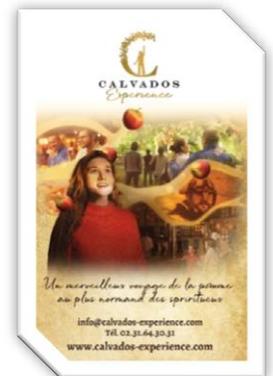
カルヴァドス酒発祥の地は、パリから2時間、ドーヴィルとモン・サン・ミッシェルへ向かう道沿いに位置します。Spirit France 社が提案するのは、りんごとカルヴァドスにまつわるまったく新しい体験です。製造の裏側を知ることができる斬新なプロジェクトは、ドキドキすることうけあい。神々もたらした美酒、カルヴァドスの歴史を辿る体感型の見学コースとなっています。

「カルヴァドス体験 ("Calvados Experience")」は、テーマ別の展示スペース、遊びながら学べるスペース、さまざまな場面を再現したスペースを巡ってカルヴァドス酒の歴史を知り、試飲も楽しめる観光スポットです。聞いて、見て、触って、嗅いで …… 五感すべてに訴えかける効果を駆使したユニークな見学コースは、大人にも子どもにもお楽しみいただけます。

www.calvados-experience.com



© Calvados Experience



© Calvados Experience

ルーアンの帆船まつり、もうすぐ再来！

2019年6月6日から16日まで、世界各地から大型帆船や伝説的な帆船がルーアンに集結します。約50艇の帆船がセーヌ河岸に7kmにわたって停泊するさまは、無料で観覧することができます。期間中は、「ルーアンの帆船まつり (Armada de Rouen)」開催30年を記念したコンサートや花火ショーなどが行われ、大勢の人出で街が活気づきます。この特別な機会にぜひルーアンを発見、あるいは再発見しにいらしてください！

www.armada.org



© Efbe - Fotolia.com

ジャポニスム・印象派展、ジヴェルニーで開催中！

ジヴェルニーの印象派美術館では、7月15日まで「ジャポニスム・印象派（≪ Japonismes / Impressionnismes ≫）」展を開催中です。

ジャポニスムが西洋絵画を根底から揺るがすようになる以前は、オリエンタリズム（東洋趣味）のアバターとしてかいつまんだ理解のされ方をしてきたことを喚起する展示内容となっています。「ジャポニスム・印象派（≪ Japonismes / Impressionnismes ≫）」展において中心的に紹介されているクロード・モネは、フランスで日本の浮世絵に高い関心を寄せた最初のアーティストと言われています。

ジヴェルニーに行くならぜひ印象派美術館へ！

www.mdig.fr



© E. Tessier - D. Dumas CRT



© Musée A.G. Poulain, Vernon

自転車の旅でいつもと違うセーヌに出会う！

セーヌ川沿いに延々と続くサイクルコースは、体を動かすのが大好きな人はもちろんのこと、ノルマンディーのセーヌ川流域をちょっと違った視点から発見してみたいという人にもぴったりの旅のルートでしょう。

ルーアン、ラ・ブイユ、コードゥバック＝アン＝コー、ル・アーヴルは印象派をテーマにした旅にはうってつけの滞在地です！豊かな自然あふれる景色、ジュミエール修道院やフォントネル修道院といった文化財の数々にも出逢えます。小休止には、渡し舟に乗り込んで反対の岸に渡るのがおすすめです。

自転車で行くセーヌの旅は、パリとル・アーヴル、オンフルールを一つのルートで結ぶもの。途中、ジヴェルニーやレザンドリなどで見逃さないスポットに立ち寄りながら、セーヌ川流域を400kmにわたって自転車で走る旅をお楽しみください。

www.normandy-tourism.org/cycling



© Thierry Houyel

フェカンの漁場博物館（Musée des pêcheries）オープン！

アルバートル海岸（ルーアンから車で北へ1時間）沿いの壮観な断崖を訪ねるなら、フェカンに立ち寄らない手はありません。漁港の町、海水浴場として知られるフェカンは、有名な香草リキュール、ベネディクトン（Bénédictine）の製造地でもあります。先ごろそのフェカンに、歴史、芸術、民族、子どもにまつわる多様なコレクションを収蔵した博物館がオープンしました。

街と沿岸を一望できるガラス張りの展望台が目を引く博物館にぜひおいでください。

www.fecamtourisme.com



© CRT NormandieNormandie

プレスコンタクト

Comité Régional de Tourisme de Normandie

ノルマンディー地方観光局

Edouard VALERE エドゥアル・ヴァレール

e.valere@normandie-tourisme.fr

Marketing Manager マーケティングマネージャー

Tél. : +33 (0)2 32 33 07 07

www.normandy-tourism.org

NORMANDY

2018年

キャンペーンパートナー

パートナー各位のご参加に心よりお礼申し上げます。

オクシタニー地方観光局
Comité Régional du Tourisme d'Occitanie



ノルマンディー地方観光局
Comité Régional de Tourisme de Normandie



エールフランス航空
AIR FRANCE



プジョー
PEUGEOT



株式会社 JTB
JTB Corp.



アン스티チュ・フランセ日本
Institut français du Japon



ローラン・ペリエ
Laurent-Perrier



ピエール・エルメ・パリ
PH PARIS JAPON K.K.



フランス観光開発機構 広報部
〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-9 ラウンドクロス赤坂 9 階
Tel 03-3582-6968
presse.jp@atout-france.fr

